

## 各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会  
杵島農業改良普及センター

「稲作情報（第13号）、大豆作情報（第10号）」について（送付）。

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第13号）、大豆作情報（第10号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

この情報はホームページ

<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00323270/index.html>

にも随時公開しています。

杵島農業改良普及センター

検索

## 気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R1 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R1 (hr)	平年比 (%)
8月	6	26.4	24.0	-2.4	31.7	26.5	-5.3	22.6	21.6	-1.0	39.2	414.0	1056	37.8	4.0	11
9月	1	25.7	25.2	-0.5	31.1	30.2	-0.9	21.8	21.8	0.0	33.2	48.0	145	30.6	23.9	78
	2	24.9	28.0	3.1	30.3	32.6	2.3	20.9	24.1	3.2	30.6	4.5	15	28.6	31.2	109

8月6半旬の気温は平年より2ほど低く推移した。降水量は平年比1056%と極めて多く、日照時間も平年比わずか11%であった。8月27日は102.5mm、28日は299.5mmの大雨を記録していた。

9月1半旬の気温は平年並み。降水量は平年比145%と多く、日照時間についても平年比78%と短く推移した。

9月2半旬の気温は平年より3高かった。降水量は平年比15%、日照時間も平年比109%となった。

## 1. 情報田の生育状況（9月11日現在）

項目 品種 (設置場所)	移植日	出穂期	成熟期 (平年値)
夢しずく (武雄市橘町)	6/16	出穂期は8月16日(平年より2日遅い)	9/21
ヒノヒカリ (白石町新明)	6/17	出穂期は8月26日(平年より1日遅い)	10/6
さがびより (武雄市橘町)	6/22	出穂期は9月2日(平年より3日遅い)	10/11

注) 平年値はH21~H30の10年間の平均。なお、ヒノヒカリについてはR1より耕作者が変更したため、平年値は参考値とする。

## 2. 一般田の生育状況及び今後の管理

晩成品種については、水を一番必要とする時期ですが、中干しが不十分な圃場では倒伏防止のために、落水期間をやや長めにした間断灌水を行い、徐々に土を固めるようにしてください。

大雨以降、落水したままの圃場が散見されます。早期落水すると登熟が悪くなり、千粒重も軽くなります。白乾しない程度に収穫7日前まで間断灌水を行ってください。

### 1) 夢しずく

糊熟期～黄熟期になっていることから、白乾しない程度に収穫7日前まで間断灌水を行い、根の活力維持に努めてください。

### 2) ヒノヒカリ・さがびより

現在、乳熟期です。登熟期間の高温乾燥で、心白・乳白等が発生し品質の低下にもつながるため田面が乾燥しないよう、間断灌水に努めてください。特に、湛水状態が続くと、土壌が還元化しやすくなるので、排水し間断灌水に努めましょう。また、圃場の地耐力が不十分(土壌が軟弱)な場合は、落水期間を長く取って稲の支持力を高め、倒伏防止に努めてください。

### 3) 病害虫

防除未実施の圃場では、天気予報を確認し、半日以上降雨のない時期を見計らって、薬剤散布に努めてください。(液剤散布では薬剤が乾いていれば十分効果が見込め、粉剤では殺虫剤で4時間程度、殺菌剤で8時間程度、降雨がなければ十分な効果が見込めます)

#### いもち病

穂いもちの発生が増加しており、今後は晴天が続くと予想されているが、拡大が懸念されるため、基幹防除を徹底してください。なお、多発生が懸念される場合は、臨機防除を行ってください。

#### 紋枯病

上位葉へ進展すると、登熟収量と品質に影響を及ぼしたり、倒伏を助長します。紋枯病菌は風通しの悪い圃場条件や、高温で多湿な気象条件を好むので、発生が多い圃場では薬剤防除に努めましょう。

#### ウンカ類 (9/5 に注意報が発令されています)

本年はトビロウンカの飛来量が多く、被害を生じる恐れが高まっています。トビロウンカと競合関係にあるセジロウンカの飛来量が少なく、本虫の増殖にやや好適な条件となっており、被害を生じる恐れが高まっていることから、図を参考に圃場ごとの発生状況を確認したうえで防除対策を徹底してください。県内各所で局所的ではありますが、急激な個体増加が確認されています。今後、WCSや早生品種の刈り取り後にウンカが集中する可能性があるため、注意してください。

#### コブノメイガ

本種に対しては、発蛾最盛期の7日後(幼虫ふ化揃い期)の防除効果が最も高いです。晩生品種で葉色の濃い圃場でコブノメイガの発生が多くなるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認し、防除対策を講じてください。

#### カメムシ類

発生が懸念される早生品種および山麓部や河川敷付近等、例年発生が多い圃場では防除の徹底に努めてください。

## その他

中晩生の品種では、曇雨天が続き、穂枯れが発生しやすいため、出穂期の防除を実施する。白葉枯病の発生がみられた場合は、周辺への伝染を防ぐため、発病株の周辺に入らない。



### トビイロウンカ各世代の発生予測(第7版、2019年9月5日作成)

1. 6月6～7日頃(図では6月6日)、6月30日頃、7月10～11日頃(図では7月10日)、7月21日頃に飛来したウンカを起点とし、有効積算温度と佐賀市川副町の気温データ(第6版では8月21日までは実測値で以降は平年値、第7版では9月4日までは実測値で以降は平年値)を基に作成した。その結果、第7版は第6版と比べ、各飛来虫の、その後の発生時期は約2～3日遅くなった。

2. 本虫に対しては、幼虫ふ化揃い期の防除効果が最も高い。しかし、本年は断続的に飛来がみられたことから、飛来波ごとの幼虫の出現時期は異なる。

3. 普通期水稻には、6月6日飛来虫は定着していないと考えられる。この例のように、各飛来波に対する防除の重要度は、田植え時期によって異なる。

4. 田植え時期に加え、地域、水稻の品種、これまでの防除歴等の違いによって、発生状況は圃場毎に大きく異なるので、必ず圃場の発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。

## 4. 大豆作情報

播種時期毎の生育状況は、7月上中旬播きで出芽揃いが良好であった圃場では開花期～幼莢期を迎え、7月下旬～8月上旬播きの圃場でも開花期となっています。播種時期によって生育差があるため、圃場ごとに生育ステージを確認し、適期管理に努めてください。

### 1) 冠水対策

雨水が退水している圃場では、排水路の整備を行い、排水に努めてください。茎葉が倒伏した場合は引き起こし、可能であれば軽く土寄せを行いましょう。

### 2) 培土

培土が出来ずに開花期を迎えた場合は、額縁明渠や間隔において(数条おきに)明渠を実施し、排水を促進しましょう。

### 3) 今後の管理

#### 病害虫防除

##### ハスモンヨトウ

- ・農業技術防除センターの8月下旬予想発生量では、**平年並(前年よりやや少ない)**となっています。
- ・白変葉が散見された頃が防除適期であるため、遅れずに薬剤防除を行ってください。
- ・今後は大豆の生育量が大きくなるにつれ、茎葉にまんべんなく薬剤が付着するように丁寧な散布を心がけましょう。
- ・葉に大きな穴が開いた株が目立ち周辺に青虫がいる場合は、オオタバコガによる食害の可能性が高い。防除には、プレバソン、ペガサスを用い、感受性が低いノーモルト、トレボンを使用しないこと。

##### カメムシ類

- ・発生量は平年よりやや多い(前年よりやや多い)と予想されております。**多発生**の条件となっているため各圃場でカメムシ類の発生状況を確認し、莢の伸長初期から子実肥大中期に防除を行ってください。

##### 紫斑病

- ・結実期において降雨が多い場合発生しやすくなる。若莢期～子実肥大期にトップジン等による予防散布を行う。

薬剤の使用にあたっては、使用時期(収穫前日数など)や回数等の農薬の登録に注意する。